

# CSRにおけるソリューション体制の構築

文教大学大学院 情報学研究科情報学専攻

森野真範

CSRとは、不祥事や法令違反に対してその責任が問われる、というレベルにとどまるものではない。また事業活動と離れたところで何か特別な社会貢献活動を求められているわけでもない。CSRは、日常の経営活動のあり方そのものを問いかけているのである。したがって、企業と社会の基本的な関係性が変化していることを踏まえ、今何が求められ、期待されているのかを理解することがCSRへの第一歩となる。さらに近年、社会的に責任ある企業に投資する社会的責任投資（SRI）が広がり始めたことで、企業の価値は財務面のみならず、社会・環境に対する取り組みを含めてトータルに評価され、格付けされるようになってきた。社会的に責任ある企業になるためには、ステイクホルダーから支持され信頼される関係をつくっていくことが重要である。企業は、従業員、株主・投資家、消費者・顧客から信頼され、有能な人材をひきつけ、コミュニティから支持されることで、そのトータルな価値を高めていくことが出来るのである。

今日本において重要なことは、CSRの議論を1つの契機として、今後の企業経営のあり方、さらに企業社会のあり方を設計していくことにある。

日本においても重要な経営課題となってきた企業の社会的責任について、いろいろな面から現状と動向を分析し、今後の指針を示す。